

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(2/8)

	評価区分(※)	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森林総合産業特区 (下川町)	正	3.9	4.3 進捗度 ・素材供給量 85% ・林業・林産業生産額 106% ・林業・林産業従事者数 99% ・林道路網密度 100% ・熱エネルギー自給率 123% ・電気エネルギー自給率 100%	3.7 規制の特例等 ・林業機械の搬送時における高さ制限 等 財政支援等 ・高密度連絡路網整備事業 等 地域独自の取組 ・私有林整備支援事業 ・林業・林産業振興事業 ・地域材産業振興資金利子補給事業 等	3.8	<p>・バイオマスによる地域熱供給システム・熱電併給システムの事業化はこれからであるが、公共施設を中心にバイオマスボイラの導入が着実に進められているなど、エネルギー自給を高める取り組みは高く評価することができる。</p> <p>・評価指標(2)「林業・林産業生産額」、(3)「林業・林産業生産従事者数」、(4)「林道路網密度」、(6)「電力エネルギー自給率」については、概ね目標値通りの実績を挙げている。加えて、評価指標(5)「熱エネルギー自給率」については、実績値が目標値を大きく上回っており、全体としてほぼ順調な進捗度合いだと評価できよう。</p> <p>・林業従事者については、少なくとも川上部門については大型機械の導入によって生産性が向上していれば人数は増えないのではないかと考える。川下と川上に分けた把握が必要ではないかと考える。また、1人あたりの生産額がどのような推移を示しているかを確認してみるとよい。</p> <p>・素材生産量が国の補助金によって左右され、今後も同様の事態であれば、結局、目標の達成が国からの補助金頼みになってしまう可能性がある。</p> <p>・③評価指標(6)の電力エネルギー自給率では、H31年にそれまでの10倍の割合に突然飛躍するが、こうした飛躍は毎年の計画の「進捗」を評価することにはなじみにくいと考えられる。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。